

首都圏空港(羽田・成田)の年間発着枠の増加

	羽田空港 (うち国際線)	成田空港	首都圏空港全体
H22.10月まで (羽田D滑走路供用前)	30.3万回	22万回	52.3万回
H25.3.30 まで	39万回 (6万回)	25万回	64万回
H26.3.29 まで	41万回 (6万回)	27万回	68万回
以降、首都圏空港を含めたオープンスカイを実施			
H26.3.30 以降	44.7万回 (9万回) 国際線3万回増枠	27万回	71.7万回
最終形 (H26年度中)	44.7万回 (9万回)	30万回 3万回増枠	74.7万回

* 1. いずれも年間当たりの回数である。

* 2. 回数のカウントは、1離陸で1回、1着陸で1回のため、1離着陸で2回とのカウントである。

* 3. 羽田空港の発着枠数の中には、深夜早朝の国際チャーター便等の運航に使われる枠数も含まれる。

羽田空港における取り組み

- 羽田空港は、国際線地区の拡充を行い、平成26年3月末に空港容量44.7万回(うち国際線9万回)まで拡大。
- 日本再興戦略に基づき、24時間国際拠点空港化を推進し、首都圏空港の機能強化のために必要なインフラ整備や耐震対策を重点的に実施。
- 首都圏空港における更なる機能強化に向けて具体的な方策の検討を進める。

【長距離国際線の輸送能力増強】

深夜早朝時間帯に就航する長距離国際線機材の大型化を実現

- ・ C滑走路延伸事業

【拠点空港機能の強化】

夜間駐機場の拡充により拠点空港機能を強化

- ・ 駐機場の整備

【空港機能の拡充】

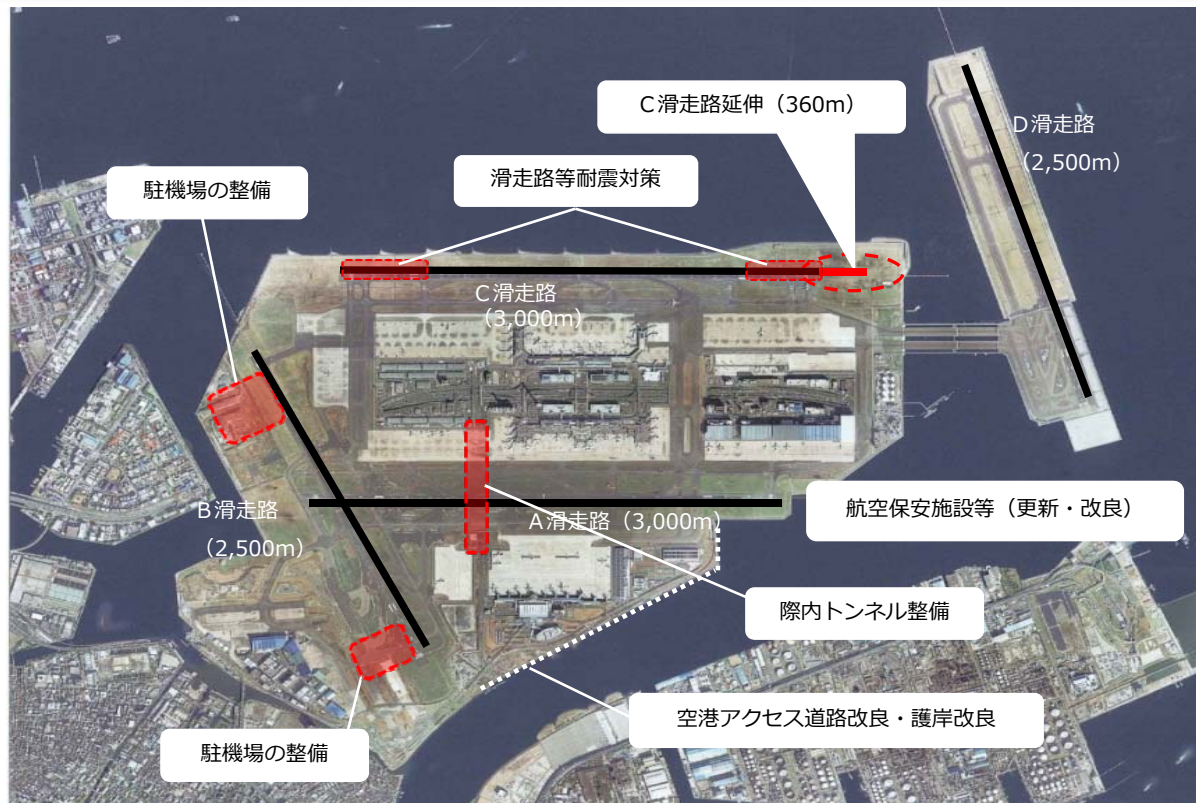
国際・国内の乗継経路の拡充等により利便性を向上

- ・ 際内トンネルの整備
- ・ 空港アクセス道路改良

【防災・減災対策の推進】

地震発生率が高いとされる首都直下地震等に対し、震災後も極力早期の段階で通常時の50%に相当する輸送能力を確保

- ・ C滑走路等の耐震対策



【老朽化対策】

航空機の安全運航に必要な基本施設や航空保安施設等について、老朽化に伴う更新・改良を実施する。

成田空港における取り組み

- 成田国際空港では、平成26年度中の空港容量の30万回化を着実に実施する。
- 平成25年夏ダイヤから実施しているオープンスカイを契機として、国際線ネットワークを一層強化するとともに、LCC等の新たなニーズへの対応強化を図り、アジアのハブ空港としての地位を確立する。
- 首都圏空港の更なる機能強化に向けて具体的な方策の検討を進める。

今後の施設整備概要

≪発着容量の段階的拡大≫

現状(平成25年3月末～) : 27万回
 平成26年度中 : 30万回

<発着容量30万回化対応>

LCC専用ターミナルの整備

駐機場の増設

WAM※の導入

※管制機能向上に必要な監視装置

<運用の効率化、能力増強>

駐機場の増設

ターミナルビルの増設・機能強化

